

選挙に行こう！安倍政権にNOを！

「原発問題は隠して…国民をあざむく安倍」シリーズ3

自民党は政権公約で「原発は重要なベースロード電源」として打ち出している。しかし10月の世論調査（共同通信）では、原発の再稼働に「反対する」60%で「賛成する」32%を大きく上回っている。そのため安倍首相は「アベノミクスを問う」と経済問題のみを全面化し、原発問題を隠し争点ならないように画策している。私たちは彼らが見てほしくない原発問題こそ日本の将来に関わる重大な問題として考えていく必要がある。

安倍は「日本の安全基準は世界一。安全が確認されたら再稼働する」と川内原発を初めとして、原発再稼働を進めている。しかし田中原子力規制委員長は、「新規制基準を満たしたから安全とは言えない」「(安倍総理の)世界一の安全基準という言葉は政治的な発言」にもあるように、安倍の言っているとは、嘘とごまかしでしかない。

そもそも世界最先端の原発は「航空機が衝突しても耐えられる」ように造られている。また万が一の事故の際に、溶けた核燃料を受け止めて封じ込めるためのコアキャッチャーという仕組みも、日本の原発ではない。ましてや海外の原発は岩盤の上に作られているが、日本列島はプレートがぶつかり合う地震と火山の国であり、そこに原発の54基も存在していること事態が異常なことだ。

「原発再稼働は日本の未来を危うくする！」

この頃「原発再稼働しなければ電気が足りなくなる」という声を聞かなくなった。原発がなくても十分に電気は足りている。

また政府は「原発は安い」（原発1kw当たり8.9円、石炭火力9.5円～10.8円）という公式見解を変えていない。しかし「自然エネルギー財団」は、原発1kw当たり14.3円～17.4円と打ち出している。英国では16.2円と算定されている。ましてや政府の試算には廃炉費用や事故対策費用などは考慮されていない。

そして使用済み核燃料の保管場所は、未だに確保されていない。青森六ヶ所村の再処理工場は稼働せず、各原発のプールは満杯状態にある。

さらに福島第一原発では、放射性汚染水が漏れ続け、溶け落ちた核燃料の取り出す展望も見いだされていない。こうした現実を無視して原発再稼働を進めることは、日本の未来を危うくすることだと言える。